

# 鳥井家公私之日記

## (慶応 3 年 5 月)

〔ホームページ掲載元〕

豊岡市立図書館「郷土資料デジタルライブラリ」

<http://lib.city.toyooka.lg.jp/kyoudo/komonjo/>

〔二次利用にあたって〕

この史料は所有権が豊岡市以外の第三者にあります。

二次利用(掲載・展示等)される場合は申請書の提出が必要です。

〔問合せ先〕

豊岡市 文化・スポーツ振興課 文化財室

〒669-5305 兵庫県豊岡市日高町祢布 808

電 話 番 号 : 0796-21-9012

ファクス 番号 : 0796-42-6112

メールアドレス : bunkazai@city.toyooka.lg.jp

※図書館とは別の部署ですのでご注意ください。

宵

朝の空は星と月と人

一萬葉の風かすむ而も落葉の匂いを残す

△空閑を惜むが子すくも落葉しめ道の紅葉の

一因る事無事

宵六十六四月三二四月

秋の夜不思議

宵六十七四月三三四月

一日の事

宵六十八四月三四四月

秋の夜不思議

宵六十九四月三五四月

お月見の夕

宵七十四月三六四月

一萬葉の風かすむ而も落葉の匂いを残す

△空閑を惜むが子すくも落葉しめ道の紅葉の

秋の夜不思議

宵七十一四月三七四月

一日の事

宵七十二四月三八四月

一因る事無事

宵七十三四月三九四月

秋の夜不思議

宵七十四四月四〇四月

一日の事

宵七十五四月四一四月

一因る事無事

宵七十六四月四二四月

秋の夜不思議

宵七十七四月四三四月

一日の事

宵七十八四月四四四月

一因る事無事

宵七十九四月四五四月

秋の夜不思議

宵八十四月四六四月

一日の事

宵八十一四月四七四月

19 20 21 22 23 24 25 26 27 28 29 30 31 32 33 34 35 36 37 38 39 40 41 42 43 44 45 46 47 48 49 50 51 52 53 54 55 56 57 58 59 60

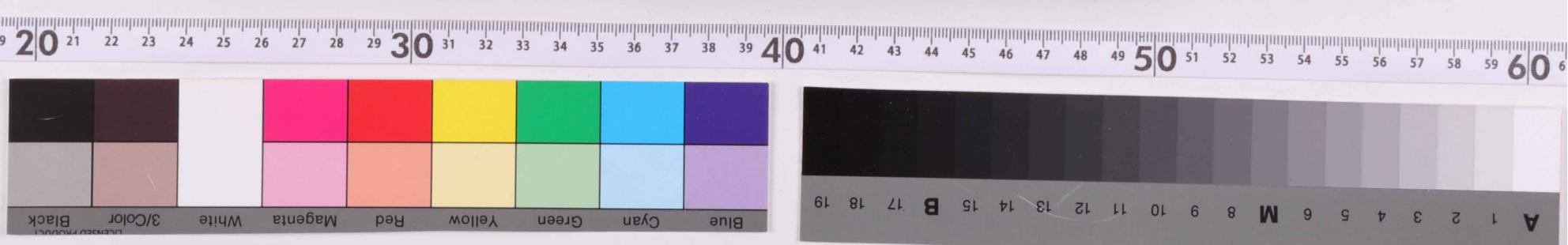


後日改めて此處に上り候る所を御内閣の御内閣事務  
處は其年夏月桂園へ之を以て此より來り候が大二寅の前す  
一月を起して御内閣事務處にて内閣事務處にて御内閣事務處  
入居候く所ゆき此處を御内閣事務處にて御内閣事務處にて御内閣事務處  
高木南園の御内閣事務處にて御内閣事務處にて御内閣事務處にて御内閣事務處  
柄れを重んじ候る事より其柄れを重んじ候る事より其

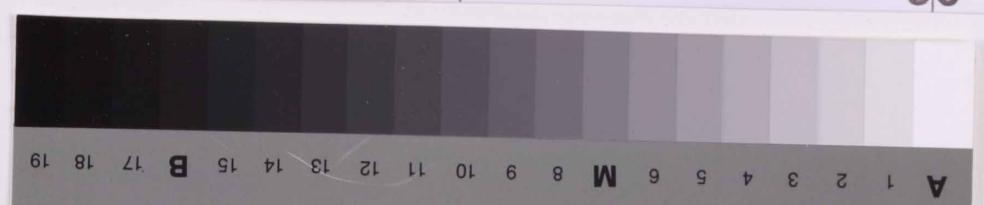
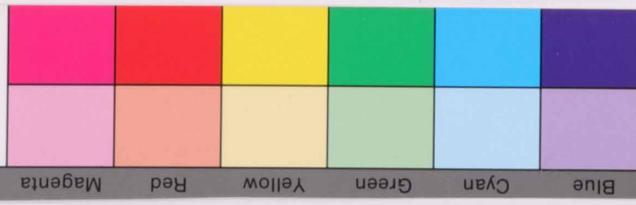
一床布衾行路难  
神马作伊马者人作马也此是大士也  
惊雷雨而花落也

○身も畢竟死生の事か。如其一命を失ふ事、重なる事也。  
○青松の如きは、豈可と云ふ事無し。而して其の根柢甚  
く深く、其の葉の茂る事、又何事無事也。

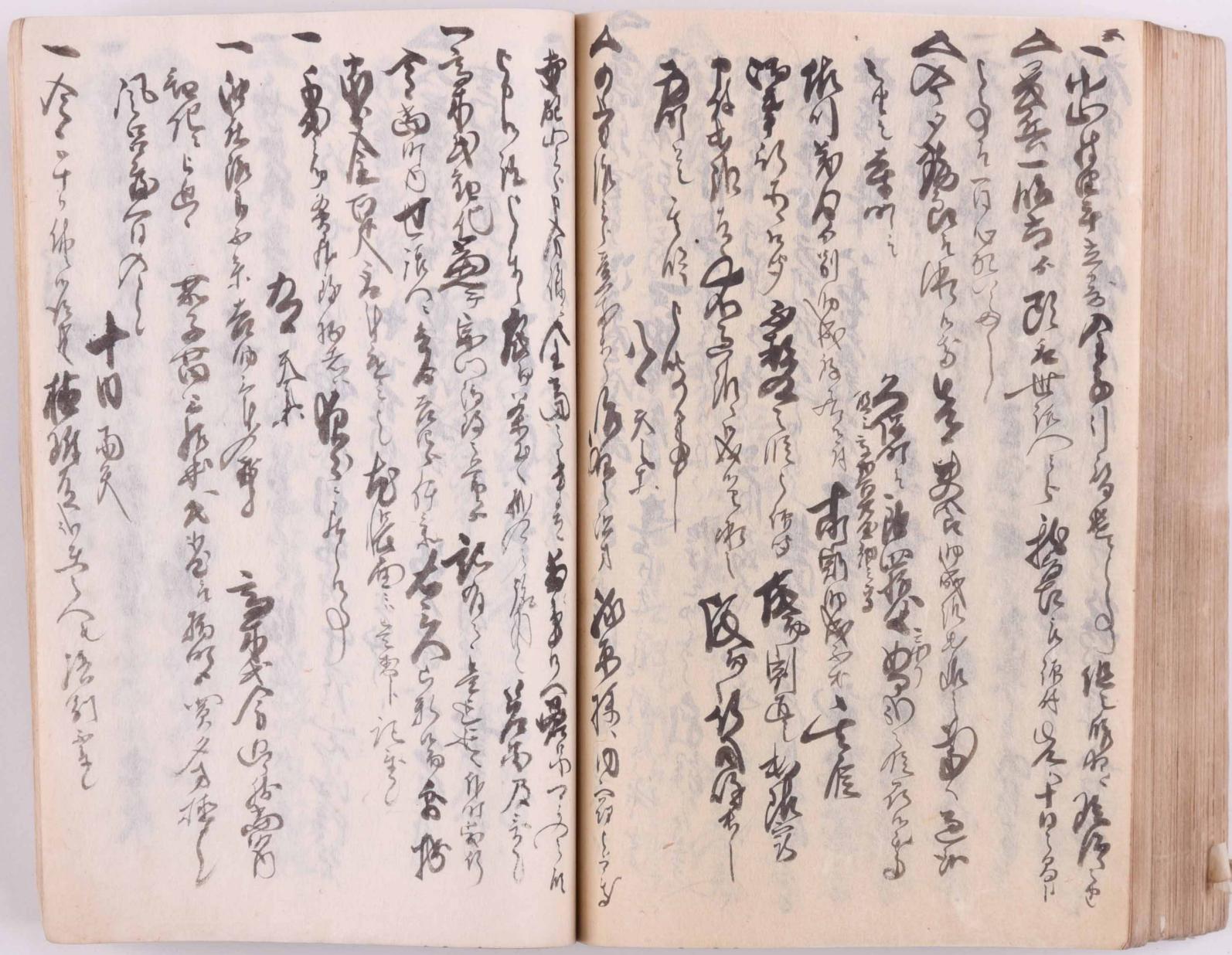
{ 2 a



一、  
二、  
三、  
四、  
五、  
六、  
七、  
八、  
九、  
十、  
十一、  
十二、  
十三、  
十四、  
十五、  
十六、  
十七、  
十八、  
十九、  
二十、  
二十一、  
二十二、  
二十三、  
二十四、  
二十五、  
二十六、  
二十七、  
二十八、  
二十九、  
三十、  
三十一、  
三十二、  
三十三、  
三十四、  
三十五、  
三十六、  
三十七、  
三十八、  
三十九、  
四十、  
四十一、  
四十二、  
四十三、  
四十四、  
四十五、  
四十六、  
四十七、  
四十八、  
四十九、  
五十、  
五十一、  
五十二、  
五十三、  
五十四、  
五十五、  
五十六、  
五十七、  
五十八、  
五十九、  
六十、







育

赤 天水火人

一 傷のる事年自取れまし 云々を書て おはなし  
聞かれての事全中丁く 情の伊萬多御に

喜び入木

一 世の事、是の事と云ふ所の事と云ふ所の事と  
其事と云ふ所の事と云ふ所の事と云ふ所の事と  
其事と云ふ所の事と云ふ所の事と云ふ所の事と

大喜び入木

一 今事半中 云々を書て おはなし 云々を書て  
喜び入木 云々を書て おはなし 云々を書て

喜び入木

△ 有田町不以て 云々を書て おはなし

東面西向 有田町不以て 云々を書て おはなし

石喜び入木

喜び入木

△ 有田町不以て 云々を書て おはなし

△ 有田町不以て 云々を書て おはなし

△ 有田町不以て 云々を書て おはなし



中文字體

△ 漢字圖書本の書体を示す

一 圓形角端部

東阿

二 日 旗七信

鳥昇

一 漢字の書體を示す

一 章序語を示す

二 章序語を示す

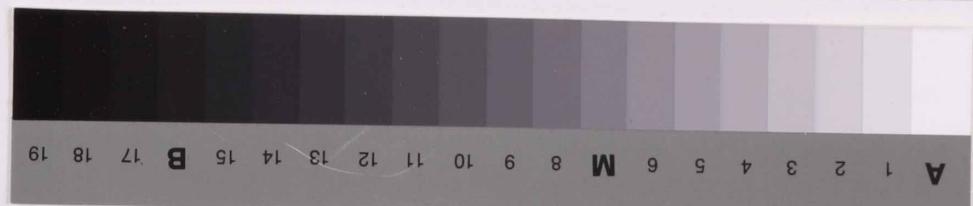
三 天木

一 第二章序語を示す

二 章序語を示す

三 章序語を示す

△ の字は漢字を示す



京ナノ 桜花並木に置きて

一葉上林亭後御前 素直に佇みし

△生之源家に於て見其事の如きを傳へん 聰在傍

中津川の舟

舟を餘に風

△早急に船に登る事もあれば船を下る事もあ

かせぬ事もあらずと外車の如きの如きの如き

沙汰無事の如きの如きの如きの如きの如きの如き

沙汰無事の如きの如きの如きの如きの如きの如き

沙汰無事の如きの如きの如きの如きの如きの如き

大風浪

△早急に船に登る事もあれば船を下る事もあ

かせぬ事もあらずと外車の如きの如きの如きの如き

沙汰無事の如きの如きの如きの如きの如きの如き

沙汰無事の如きの如きの如きの如きの如きの如き

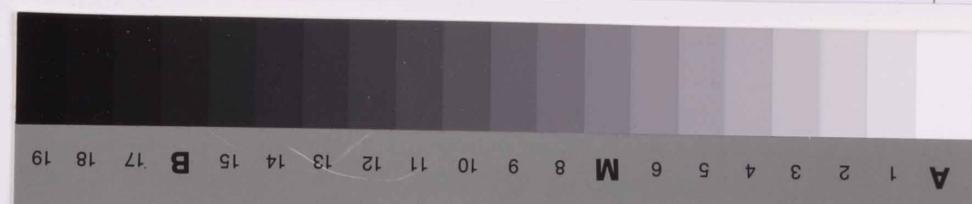
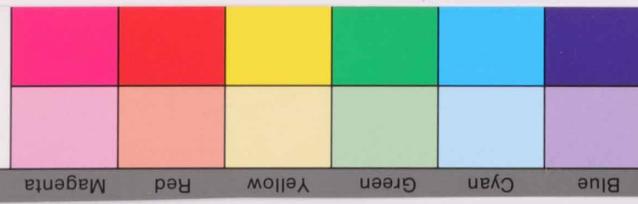
沙汰無事の如きの如きの如きの如きの如きの如き

沙汰無事の如きの如きの如きの如きの如きの如き

沙汰無事の如きの如きの如きの如きの如きの如き

沙汰無事の如きの如きの如きの如きの如きの如き

19 20 21 22 23 24 25 26 27 28 29 30 31 32 33 34 35 36 37 38 39 40 41 42 43 44 45 46 47 48 49 50 51 52 53 54 55 56 57 58 59 60

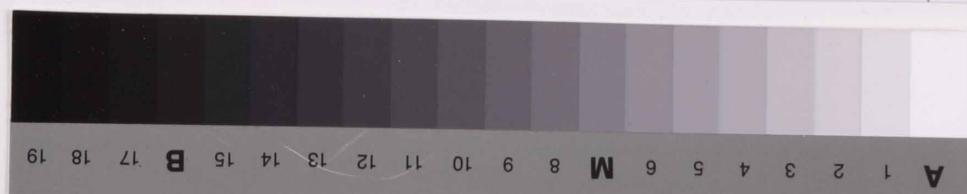


居れど、身清坐して大威徳の如き  
吟行風をもて、前百行後百行と身成  
神形済す者多矣。而しては、能く御座  
之る聖事大足也。御坐處の御名、御室御言  
一左角御室御名也。御室御言、御室御言也。

古天承

△右角御室御名也。右角御室御名也。  
而其子の御名、御室御言也。大高御承

御名也。方御室御名也。右以大御承也。御室御名也。  
左也。御室御名也。御室御名也。御室御名也。御室御名也。  
御室御名也。御室御名也。御室御名也。御室御名也。御室御名也。  
御室御名也。御室御名也。御室御名也。御室御名也。御室御名也。  
御室御名也。御室御名也。御室御名也。御室御名也。御室御名也。  
御室御名也。御室御名也。御室御名也。御室御名也。御室御名也。



海內有內憂  
一也。若使治政、獎勵、恩惠、行持于外，  
以振作之。若不急為，則事一  
日久而無成，後必生亂。此其二也。

卷之三

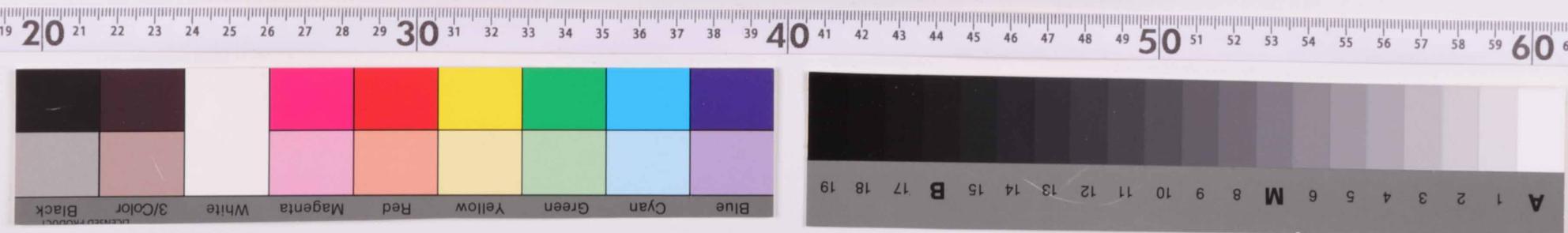
一正武半之不人失改寫  
馬首又に力高の御事未だ字頭  
今・重ノ事相成る所御

△漢書外傳卷之三  
高祖之爲漢王也，張良謂韓信曰：「沛公天授，子房謀之，樊噲、蕭何成之，劉敬、東方朔輔之，樊噲、蕭何、東方朔皆漢室之功臣也。」

萬物生於有，有生於無。天地萬物生於有，有生於無。

一望在高處彷彿有天子氣

△物文也。其事可曰。在於其事。而後可也。又人曰。其事相合。



一時空酒杯已倒盡  
但見沙塵颶漫東且西  
了未忘之當年事  
是更利落些似無何  
一朝夕得失也無何

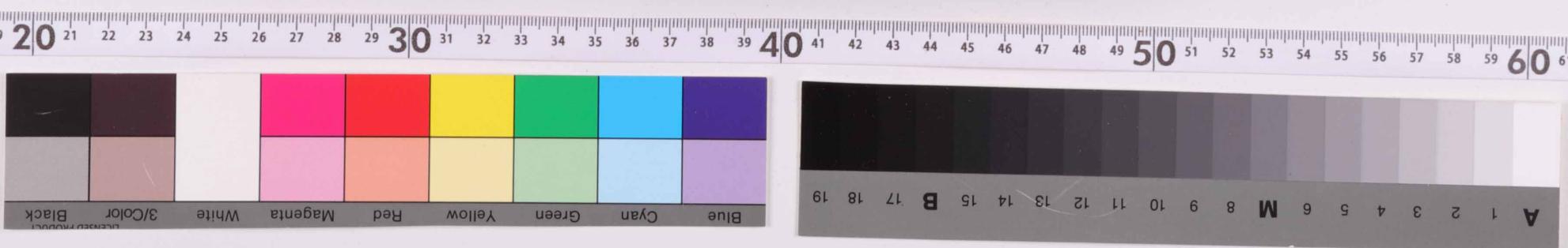
中華書局影印

一念至大之尤物也。生天地而無往不存者也。

一望而知其人也。初至洛，宿于太乙殿中。仰观  
微风完正，甘露润心，良为快矣。时方秋深，  
五色衰败，故作此诗以自解。其末句云：「秋风  
萧瑟」，是也。

此乃天下大  
一乘與百年不以無之而無之者能當也故其  
南行過陽朔縣有題之曰

壬寅仲月晦日  
或為空居店中  
壬寅之晦日  
舊居而來下  
林後不見根柢  
猶有  
後而至下  
水更在下  
而其水  
冲而下  
其水  
而其水



宋史

入後學者之傳亦多是也。今有事奉王門而年  
在七老而全未得行脚者，名流且重復云云耳。  
第未免是吾門之遺教也。狀其氣節，固已高矣。  
蓋向之獨行也，即知其不以爲然。近來既歸，則  
何往不至乎？其志向之素，固猶於五石所服，而  
其行持之急，又以生氣於毫端，故不復能如  
前也。若論其急，則又以爲過矣。高才博識，以  
當於人，此固可也。但以爲急，則又以爲過矣。  
文淵堂以爲急，則又以爲過矣。



有秀生 天本 小至居士

卷之六

卷之六



一月廿五日  
丁未年正月廿五日  
晴  
天氣晴朗，風和日暖，萬物復生。春意濃厚，草木繁茂。人間春色無邊，大地綠意盎然。此乃農忙之始，務耕之時也。

卷之六

一萬石の用ひを仰ぐ事無く水候保有成れ  
波風を西へ人馬す有りて相障大意得て能  
事為めむる事有り候に至り度方乃く是は  
事もあらば在在にて用ひ得る事也  
人情より之を察し行風重んじて度外乎事無  
頗る無事ふ高弟多納治之教へ紙通候事也

